

尺八音譜

鳳凰軒
藤田松調著

說解

附
練習音譜

260
7
810

特48
901

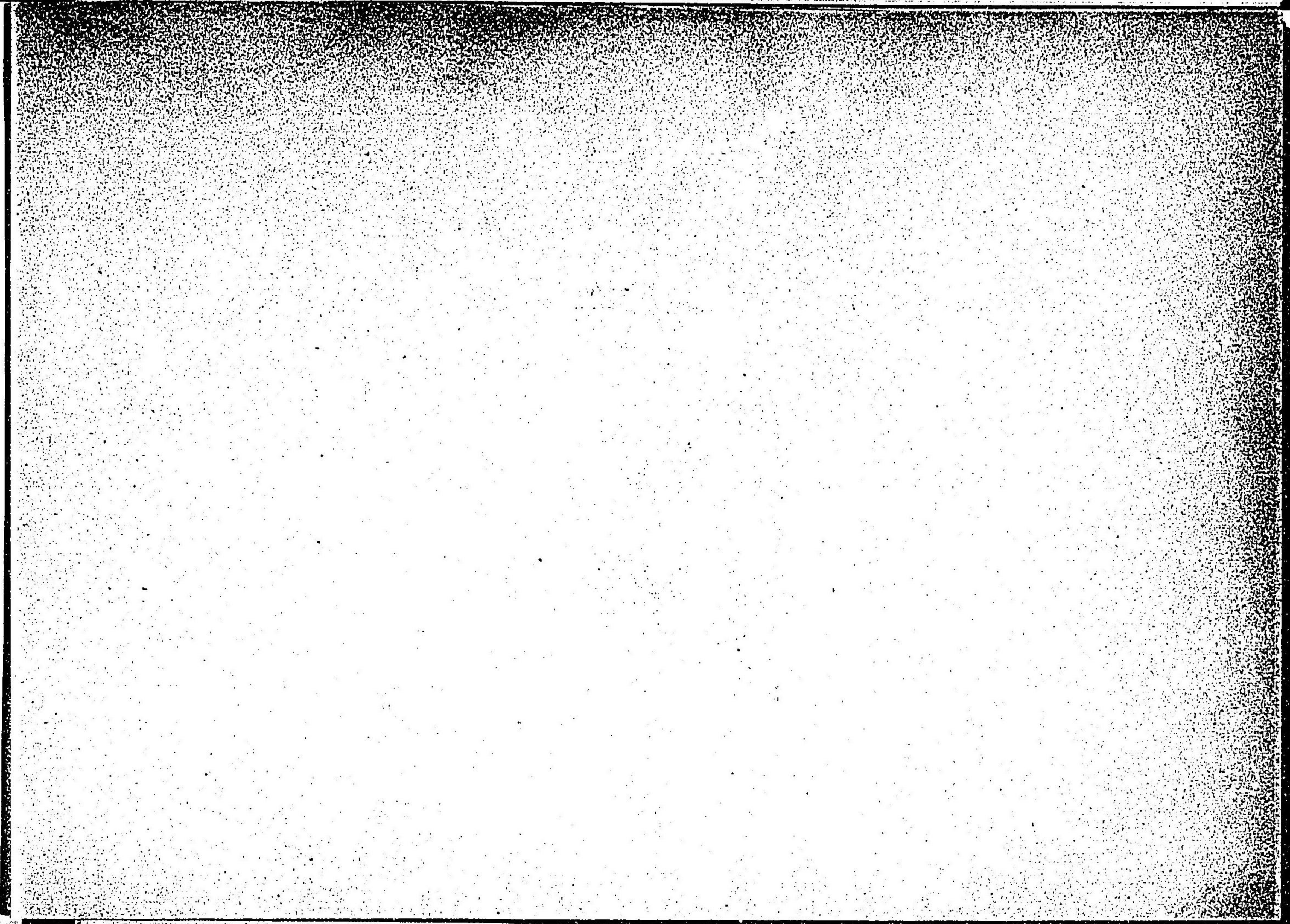
藤田松調著



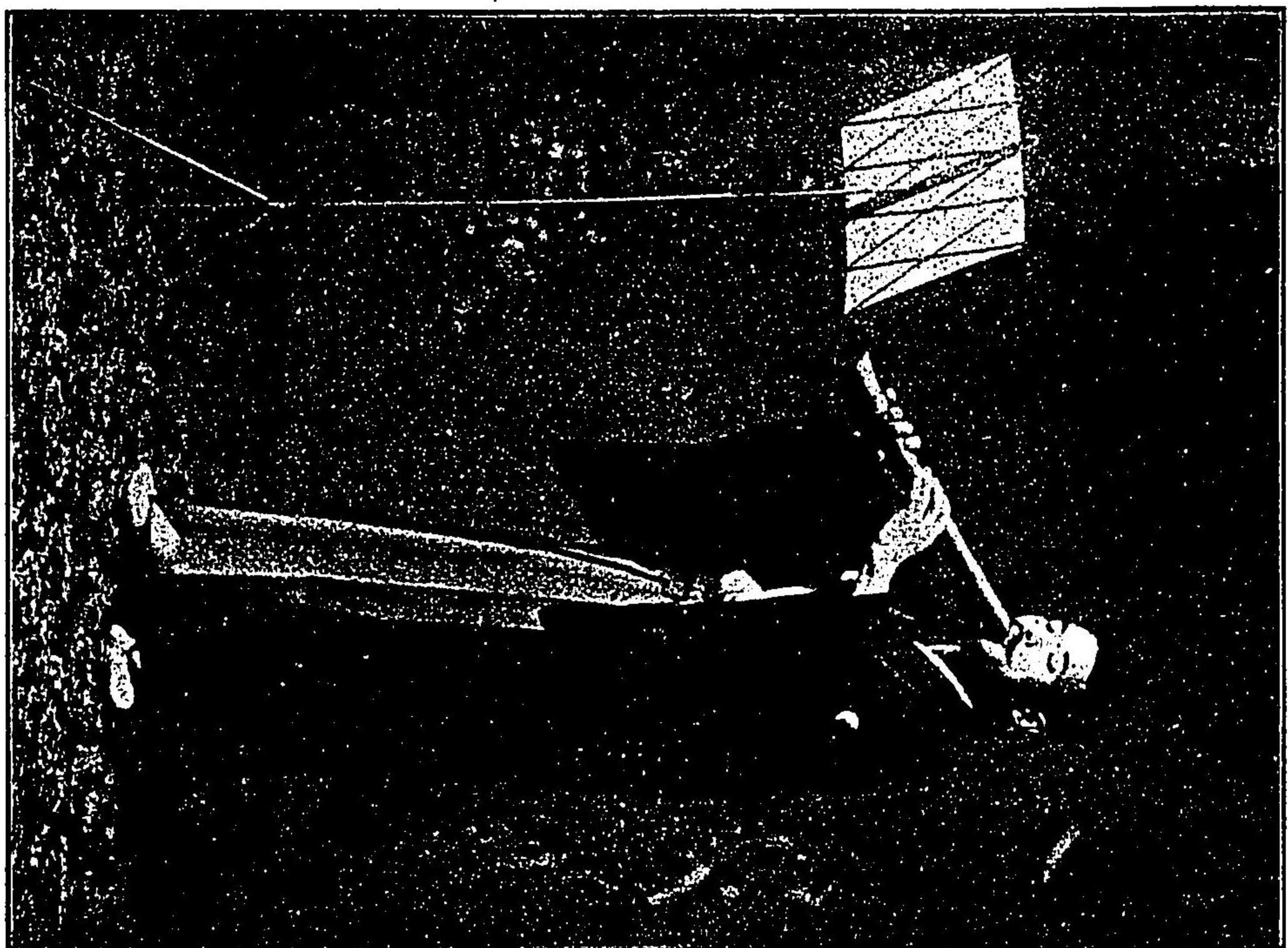
說

練習音譜

明治
43. 2. 24
内交



立 奏 姿 勢



自叙

尺八とは何を以て名づくる曰く其長け一尺八寸なるを以てなり此竹笛や其音啾唳として天地人類をして感せしむ理も是れ何の徳ありて然るや曰く請ふ其徳を具ふる故を説かん正雅なる音律を備ふることは言ふを須るず笛は陰陽五行を表し天象にも象る所あり歌口の半月形なるは大陰に象り管尾孔の圓形なるは大陽に象り表孔四箇を有するは四季を表し裏孔一箇は四季相通ずる所の土用を表す更に又此表四孔を木火金水とし裏孔一箇を土とし指頭を用ゐて抑放するは相生相尅に比す七節あるは東西南北天地人を表せしものにして之れを四倍すれば四七二十八宿と爲り定寸一尺八寸表裏合して三尺六寸は三十六禽を象り尙又四倍して七十二候を表し歌口を陰とし管尾孔を陽とす斯の如く天地陰陽等の徳備はり正雅啾唳の音を發す樂は人の性情を安んじ樂まじむるの神器なり就中尺八の如きは邪念を拂ふに於て特に適へるものこそ輓今此笛を吹奏すること大に行はる而かも獨習に供するの書未だ多からず依て僭踰を省みず此篇を成すこと爾り是を叙と爲す

鳳凰軒

當道音樂會員

藤田松調謹述

浪華兩國橋のほとり

例言

一本書は初學者獨得練習の便に供せんが爲め練習曲譜を記載し淺きより深きへ易より難にこ入り易き様順次を爲し予の發明に係る半音符名を付し曲節抑揚緩急長短の度に適はんことを欲し悉く記號を以て指導せり

一尺八吹奏を練習せんこ欲せば第一音譜間拍子を暗記し而して後ち曲譜を練磨するを要す故に卷首に於て深切に之れを説示せり

一本書記載する所の曲譜中に於て吹奏し難しと思惟する諸氏は一步の勞を吝まらず予が軒に來つて質せ予は之に答ふるの責に任し懇切叮嚀に教授す

目次

一肖像	四
一自叙	五
一例言	六
一尺八吹奏心得	七
一十二律音名對照	八
一音譜說明	九
一半音譜	十
一別譜	十一
一音符長短比例	十二
一拍子數へ法	十三
一間拍子說明	十四
一緩急記號	十五
一記號	十六
一休止記號	十七
一搖り音說明	十八
一合曲調子心得	十九
一練習音譜	二十
一數へ歌	二十一
一君が代	二十二

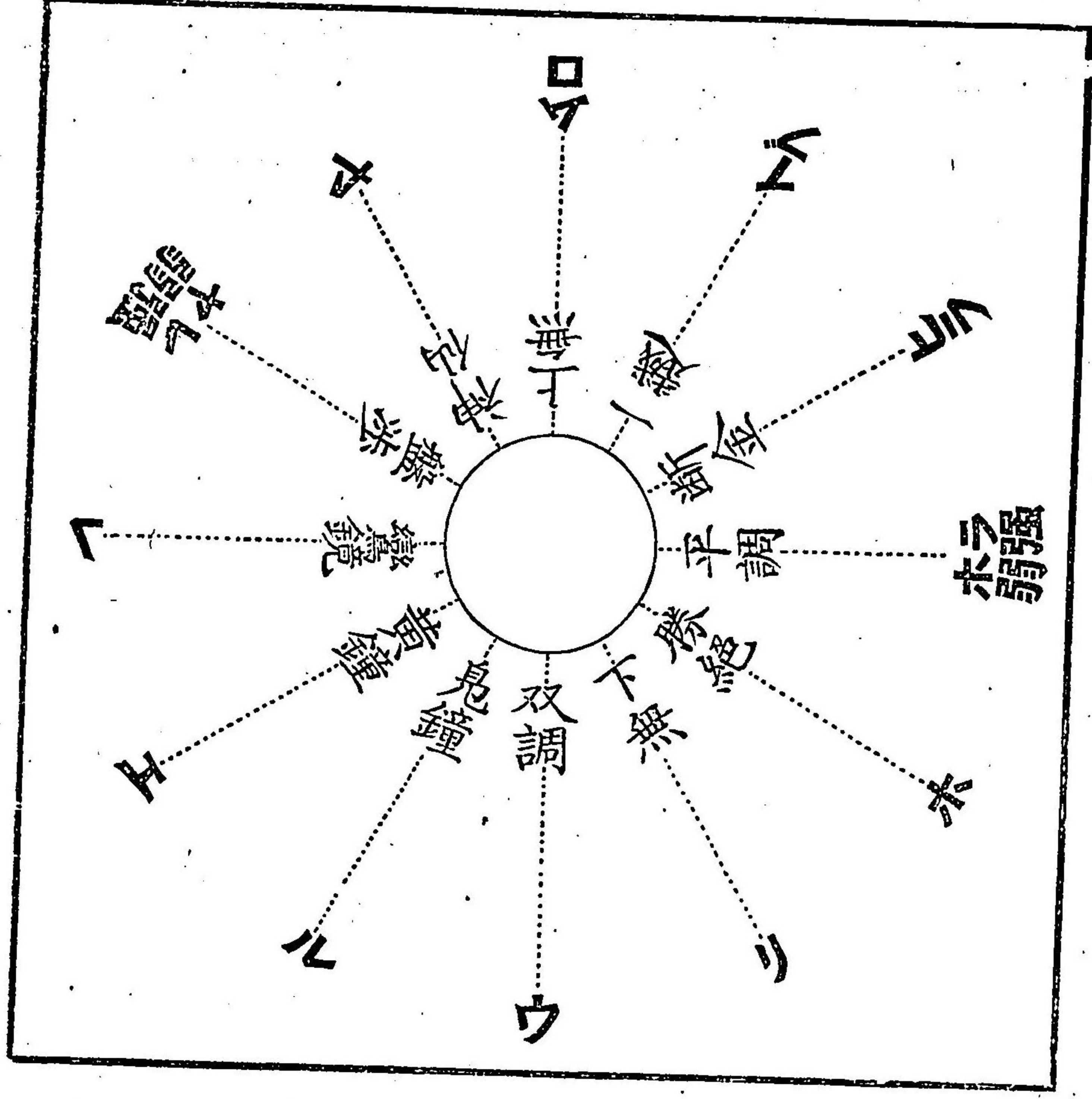
尺八音譜解説

鳳凰軒 藤田松調 著

尺八吹奏心得

尺八吹奏せんには其姿勢を心得るべし先づ身體屈曲せざる様座し或は立姿にて下腹に力を込め全体豎に持ち歌口を唇邊に堅く當て而して管尾は唇邊の高さより約六寸の下位に保ち何れの孔も堅く塞ぎて臂を張り息は自然に吹き入るべし其指の持ち様は右手の無名指にて一ノ孔を塞ぎ同食指にて二ノ孔を塞ぐ左手の無名指にて三の孔を塞ぎ同食指にて四ノ孔を塞ぎ拇指にて五ノ孔を塞ぐべし而して左右の中指右手の拇指にて尺八の全体を堅く持ち首を軽く打ち振り呼吸氣息は音調の抑揚緩急の變化に随ひ軽く開塞すべし尺八の内部に水氣滯溜する時は其音の變ずるもの故柔かき布にて拭ひ去るべし

(十二律音名對照表)



音譜說明

フ 音は皆孔を塞ぎて發す

ホ 音は一の孔を開きて發す

ウ 音は一及ビ二の孔を開きて發す

エ 音は一二三の孔を開きて發す

ヤ 音は三四の孔を開きて發す

イ 音は三四五の孔を開きて發す

ヒ 音は二四五の孔を開きて強く吹發す

フ 音は皆孔塞ぎて乙に吹きて發す

ム 音は最も弱く頤を下げて沈んで吹くべし

(裏孔)

五

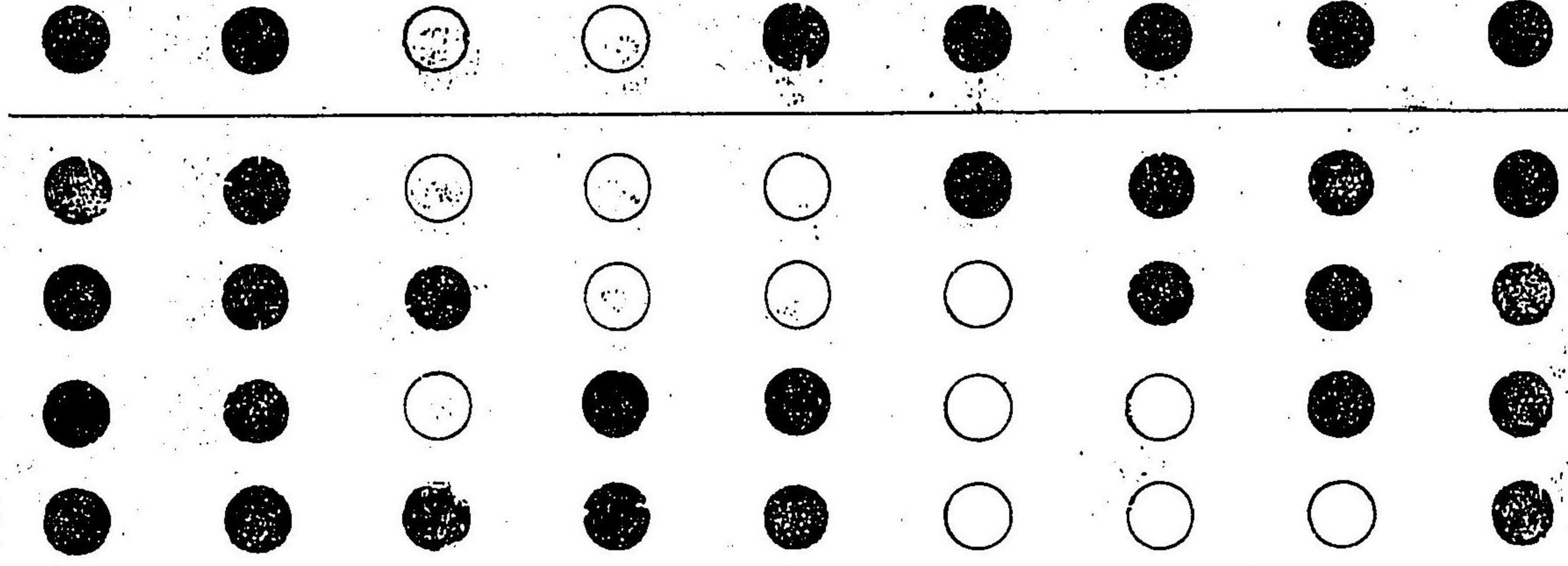
(表孔)

四

三

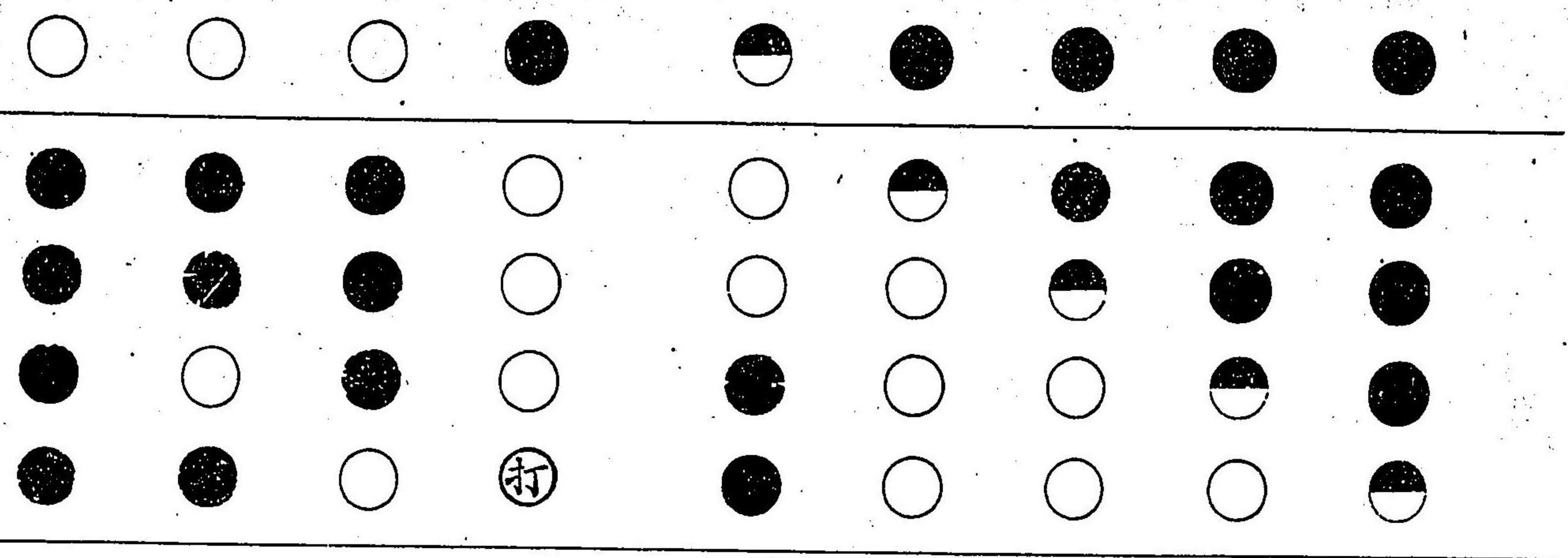
二

一



半音譜

半音譜は圖解の如く指を上方へ摺上げ半孔を開きて息は少しく弱め洗んで吹くべし



ラ リ ル レ ロ コ ロ 天

別譜

カラカラ 音は五の孔を塞ぎ右の無名指にて息強く一の孔を早く打つなり
但し息弱め打つ事もあるべし
音は此如く三譜を指早く息弱め吹くべし

音符長短比例

音符とは音の長短を定むる符にして歌曲の拍子高低抑揚等は是れによりて表はる音符には凡六種ありて其名稱は左の如し然れ共比例上の名にして初學者には會得し難し依て爰にわかり安き様示すべし

(全音符)(二分音符)(四分音符)(八分音符)
(十六分音符)(三十二分音符)

全音符とは凡時計の玉四振りする間延長す音符なれば是四拍子と云ふ
二分音符とは全音符の半分即ち玉の二振りする間是を二拍子と云ふ
四分音符とは二分音符の半分玉の一振りする間是を(一拍子)と云ふ

八分音符とは四分音符の半分玉の半振りする間是を半拍子と云ふ

十六分音符とは(一拍子)を四ツ割の早さなり

卅二分音符とは(一拍子)を八ツ割の早さなり

拍子數へ法

拍子とは音譜の長短を明了せしむる爲數多記號を以て區分せり其一小節内に於ける音譜是を四拍子と云ふ又一小節内に二拍子二個或は一拍子四個半拍子八個十六分ノ一十六個是れ皆四拍子に相當するものなり其右に符したる片假は拍子を數ふるが爲め記載するものなれば其れに依て數へ知るべし

フー レ フー ー	フー ー ○ ○	ホー ホー ホー ホー
フ フ フ フ フ フ	フ ア ア ア フ ー	フ ○ フ フ
ウ ホ	ウ ホ	フ ー

間拍子説明

如く(ウ)にて一拍子七半保ち(ホ)は二半にて早く吹くなり

如く(ウ)にて一拍子七半延すものなり

如く七半の長さを保つものなり

如く(ウ)にて七半保ち(ホ)は二半にて早く吹くなり

如く七半の長さを保つものなり

如く一拍子の長さを保つなり

如く一拍子半の長さを保つなり

如く半拍子の長さを保つなり

如く半拍子なれ共少しく緩わに吹くなり

如く半拍子づゝにして少しく急ぎ譜二字を一拍子の間に吹くなり

揺り音説明

フフフ

如く吹くときは第二の指にて揺るなり

ホホホ

如く吹くときは第一の指にて揺るなり

ウウウ

如く吹くときは第三の指にて揺るなり

エエエ

如く吹くときは第四の指にて揺るなり

ヤヤヤ

如く吹くときは第五の指にて揺るなり

イイイ

如く吹くときは第五の指にて打つなり

ヒヒヒ

如く吹くときは第三の指にて揺るなり

其他半音も其譜の指にて揺るなり

但し(口)音に限り四の指にて軽く打つべし

合曲調子心得

尺八に合奏すべき楽器數種あれども就中最もこれに宜しきは琴三絃なり是れを第一とす而して合奏するときは先づ尺八より其調子の一ノ音を吹き其音を絃に寫す可し其調子の譜は左に示すなり

本	三絃ノ一	フ	三絃ノ一	ヤ	三	三絃ノ一	フ
調	三絃ノ二	ヴ	三絃ノ二	ヴ	下	三絃ノ二	ヴ
子	三絃ノ三	フ	三絃ノ三	ヤ	リ	三絃ノ三	ヤ

其他替り調子ありと雖も茲に略す

尺八解説終

練習音譜



(四) 一^甲ホリカ、エカ、ホフ、レ^乙エ、ムホムヤ、エ^乙ヤ、ロロ、ヒ^甲イ、イヤル、ヅー、ヅ^乙。

第七練習

ウ^甲ラフヤ、フ^甲ラウラ、ヤルヅホ、ラヤル^乙ル
 エ^甲ウラフ、ラ^甲ウラフ、ル^乙ヤルヅ、ホホヅル
 ヤ^乙ラフヤ、ラ^甲フ^甲ラウ、ル^乙ヅルヤ、フヤルヅ
 ル^乙ルヅホ、ヅ^乙ルヤル、ヤ^甲フ^甲ウラ、ヤ^乙ルヅル

第八練習

ホ^甲ロヤ、ホ^乙ロヤ、エ^乙ヤ、ロエ、ヤ^乙ロヤ、エ
 ヤ^乙ロヤ、エ^乙ヤ、ロロ、ウ^甲ホロヤ、ロ^乙エヤ、ロ
 ム^乙ムヤ、エ、ル^乙ホムム、ヤ^乙ムホム、ウ^甲ホムム

ホムムヤ、エヤムム、ホムムヤ、ムホムム

第九練習

フ^乙レエヅ、レ^甲フ^乙レエ、レ^乙エヅラ、エヅエレ
 エ^乙レフ^レ、ホ^甲フ^乙レレ、ヅ^レレエヅ、ラ^フレエ
 イ^甲レエウ、リ^ホフ^レ、ホ^甲リエリ、エ^乙リホホ
 レ^乙エリホ、ヒ^甲イ^乙ヤル、ヒ^乙ヒ^乙イ^甲ヤルヅ

第十練習

マ^乙エヅ、エ^甲ウ^レラ、ル^乙マフ、ヅ^レホフ
 レ^乙エヅ、ル^甲ウ^レホ、ヅ^レホム、ヅ^レホエ
 フ^乙ムル、エ^乙ヤ^レフ、ヅ^レエヤ、ヅ^レホロ
 フ^乙ホヅ、ホ^甲ウ^レエ、フ^レホウ、ム^乙ヤ^レエ
 ラ^乙ウ^レエ、ム^乙ホ^レヅ、ラ^レマ、イ^乙ヤ^レフ

(五)

甲^レホフホウ フーヤ ヌヤ、エダ
 フホホ フヤ、エダ エ^ニエダ エ^ニホ^ニ
 ブホウ フホー ヌー | ヌー
 ヤーエー ヤーフ ホ^一フー フー
 ホウホ フヤ、エダ ヤーヤ、ダ、ダ、
 ヤーホ^一フヤ、イヤ、フーフー
 甲^レホホ、ウウ、エ^ニエ、ヤ、ヤ、
 フヤ、イヤ、フーフー エ^ニエ、
 甲^レウーホー フホ^一フヤ、イヤ、フーフ、
 甲^レエエダ フホ^一ヤ、イヤ、フー
 甲^レエホ ヤーダ、イーヤフー
 二

第十九練習

甲^レグーラ。ダホブー ヤ^一ヤ^一ル^一グ^一。ホ^ニダ
 ホダ^レヤ^一 ヌ^一ラ^一フ^一ヤ^一 ル^一ホ^一ヤ^一ダ^一ヤ^一ヤ^一
 甲^レル^一ヤ^一ヤ^一 イ^ニヤ^一ル^一ダ、 ヤ^一エ^一ダ^一ダ、^一ヤ^一
 ヤ^一ヤ^一ル^一。ダ^一ヤ^一エ^一エ^一 フ^一ヤ^一ヤ^一ラ^一ブ^一。
 甲^レダ^一ヤ^一ヤ^一ル^一 ヤ^一イ^一ヤ^一フ^一。ダ^一エ^一エ^一ダ^一エ^一ラ^一フ^一
 甲^レ。ホ^一ヤ^一ル^一 ヌ^一ダ^一ヤ^一ダ^一ヤ^一エ^一エ^一ヤ^一エ^一ラ^一フ^一
 甲^レダ、ラ^一ヤ^一ラ^一ヤ^一ル^一 | ダ^一ヤ^一ダ^一ヤ^一ル^一ダ^一ル^一
 甲^レヤ^一ヤ^一イ^一ヤ^一フ^一。ホ^一ヤ^一ダ^一ル^一ダ^一ヤ^一フ^一ヤ^一ラ^一
 甲^レヤ^一ラ^一ヤ^一ル^一 ヤ^一フ^一ダ^一ラ^一ダ^一ホ^一ダ^一ホ^一ヤ^一
 甲^レカ^一ヤ^一ヤ^一ル^一 | ダ^一ル^一ヤ^一フ^一 | ウ^一ホ^一
 甲^レカ^一ラ^一カ^一ラ^一カ^一ラ^一カ^一ラ^一イ^一ヤ^一フ^一 | 二

まフーこフー^甲いエー^乙さエーちエーきヅー
 ズ、けホーはマーマーマーよマーマーみホー
 めヅーのウーほフーれフーにフーがヅー
 一 〇 〇 マー 〇 マ、エー
 二
 むホーなエーいウー^甲やウー^乙よマーマー
 ウーリマ、しホーちラー エー
 すフーてヅーのウーよフーはヅー
 マー 〇 〇 にマ、 〇

君
か
代

たホ、めホ、 しヅ、あホ、
 むホ、 ズ、 わエ、にエ、 すマ、べエ、 つマ、とエ、
 たウ、つホ、 ヤフ、のマ、 たホ、めホ、 しヅ、あホ、
 こフ、らフ、 とフ、ひホ、^甲 〇 マ、
 りヅー しヅー いマ、ちマ、
 エ、ヅ、 エ、ヅ、 ねエ、んマ、

歌
一
歌

たホい ぬホい ころフ、 ひエいノ
めホい らホい フ、 とエい
しヴあホい わにエい すマい つマい
あホい べエい とエい

君か代 数へ歌
りヴー たホい しヴー マー 数
| 二 ヤフ、 のマ、 〇 マ、
たホい ころフ、 ひホー^甲
めホい らホい フ、 とフ、
しヴあホい わにエい すマい べエい はフ、

りヴー いマ、
エヴ、 エヴ、 ねエい
ちマ、 んマ、

まフーこフー^甲いエー^乙さエーちエーきヴー
マ、けホーはマーマーマーよマーマー
でヴーのヴーほフーれフーにフーがヴー
| 二 〇 とマ、 〇 マ、 エー
むホーなエーい^甲ウー^甲やウー^甲よマーマー
ウーリマ、 しホーちラー エー
すフー^乙でヴーのヴーよフーはヴー
マ、 〇 〇 にマ、 〇

秘曲乃部

大阪市歌

定價 拾五錢

金剛石

定價 拾五錢

六段調

定價 拾五錢

喇叭ノ曲

定價 貳拾錢

千鳥ノ曲

定價 貳拾錢

越後獅子

定價 貳拾錢

さむしろ

定價 貳拾五錢

名所土産

定價 貳拾五錢

春ノ曲

定價 貳拾五錢

夏ノ曲

定價 貳拾五錢

夏並曲乃部

黒鶴の聲 定價 拾五錢

新通 定價 拾五錢

あふさくこ 定價 拾五錢

扇の香の 定價 拾五錢

袖の香の 定價 拾五錢

龍菊の露 定價 貳拾錢

七袖の露 定價 貳拾錢

ゆいさ 定價 拾五錢

八千代獅子 定價 拾五錢

夕空 定價 拾五錢

萬時七 定價 拾五錢

梅の月 定價 拾五錢

椿の月 定價 貳拾錢

其他近刊續々發行

明治四十三年二月十一日印刷
明治四十三年二月廿七日發行

定價貳拾五錢

著者 藤田松調

發行兼者 永田榮一

複製不許

印刷所 永田商店

大阪市西區京町堀通五丁目三十八番地

大阪市南區心齋橋通塩町北へ入

發賣所 矢島誠進堂書店

電話南二七六番
振替東京四四五番
口座大阪壹壹四番

明治四十三年二月十一日印刷
明治四十三年二月廿七日發行

○定價貳拾五錢

著者 藤田松調

發行兼印者 永田榮一

復製不許

印刷所 永田商店

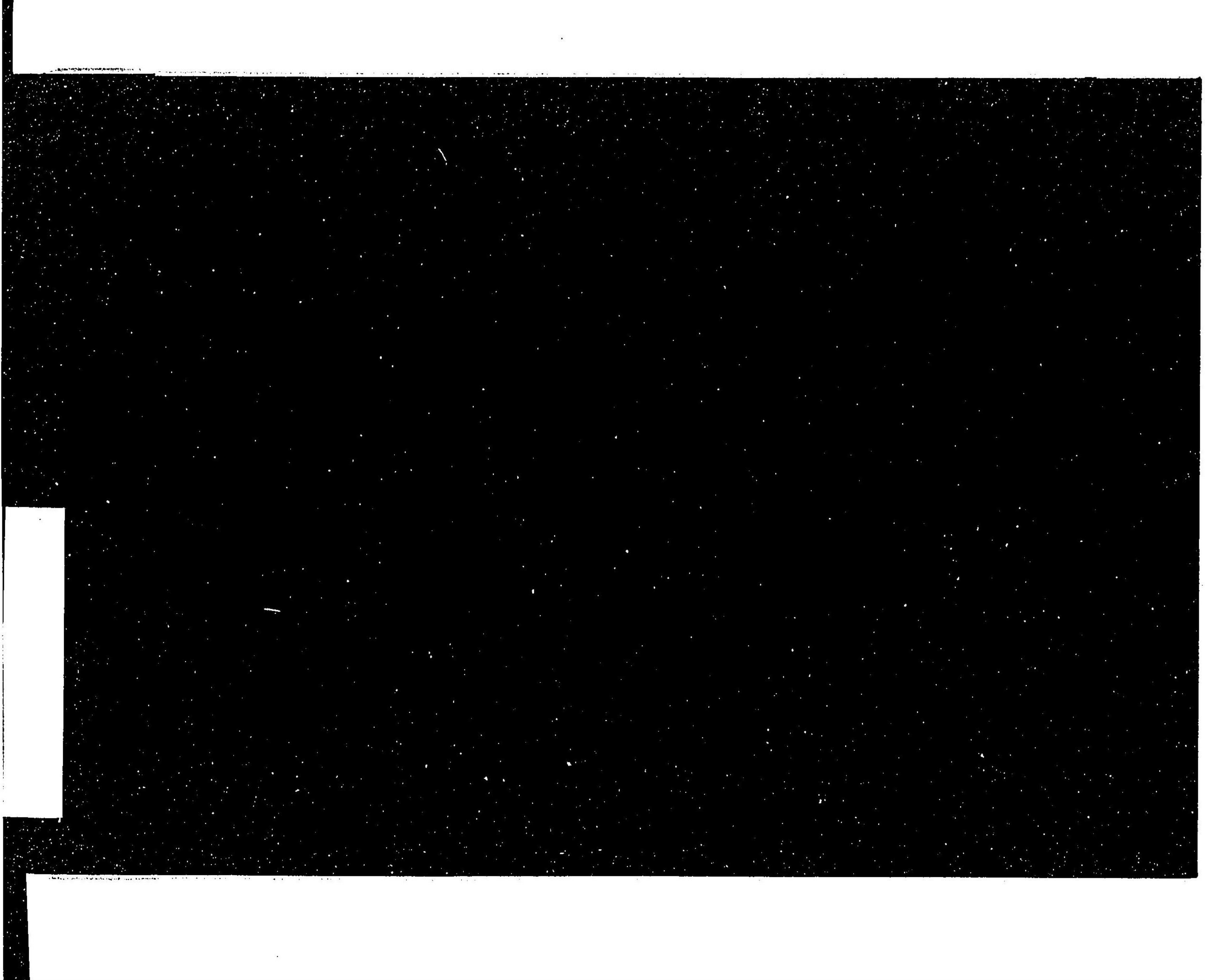
大阪市西區京町堀通五丁目三十八番地

大阪市南區心齋橋通堀町北八入

發賣所 矢島誠進堂書店

電話南二七六番
電話南二七六番
電話南二七六番
電話南二七六番

260
7
310



特48

901

尺八音譜 解説

国立国会図書館

074475-000-1

特48-901

尺八音譜解説 附, 練習音譜

藤田 松調/著

M43

CEI-1790

